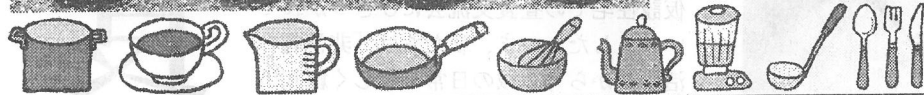




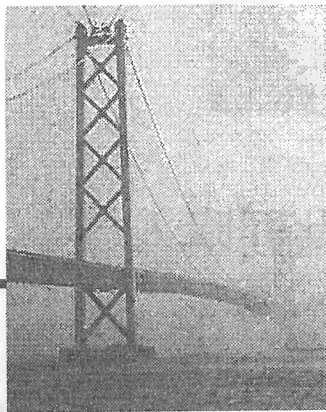
第6号
1998.1.5

編集発行
都市生活地域復興センター
兵庫県西宮市津門西口町 7-3
TEL 0798-36-6679
FAX 0798-36-5114
Email pancer@lib.bekkoame.or.jp



もうひとつの地産づくりをみだして

建設中の明石海峡大橋



お元気ですか?

‘かけ橋’です。

震災から3年、今年はあたらしいことをはじめようとおもっています。

■始めはすれ違いから

‘お元気ですか?’をあいことばに、私たち‘かけ橋’が活動を始めて1年と6ヶ月が過ぎました。はじめは明石市の中崎仮設住宅で活動を始めましたが、そこでは私たちの思いとは違い、必要とされているお年寄りや障害者には、あまり手をさし伸べられませんでした。ふれあいセンターを運営している、若い元気な人達にとって、私たちの活動(メニュー)が、興味のないものだったので、受け入れてもらえなかったからです。

■仮設で元気をもらう

次に活動した西明石の仮設では、とても喜ばれました。仮設自体が小規模で、皆が仲良しで、とても前向きだったのです。姐御肌のYさん(涙なみだの過去の持ち主)は、テキパキと指図して、明るく私たちを手助けしてくれました。いつもこざっぱり、すてきな手作りのニットの上着を着ているHさん(独り暮らしの老婦人)は、最後の食事会の時に、私達9名全員に手作りのかわいいリング型したナイロンのタワシを編んでくれました。ここでは、元気に楽しい思い出をもらいました。

■「喫茶店」を始める

西明石のふれあいセン

ターが閉鎖されたとき、私達は考えました。これからは地域で何か出来ないかと…。そんなとき、垂水区ボランティアセンターの紹介で、特別養護老人ホーム桃山台ホームで「喫茶店」を月一回開くことになりました。当初の予定では、4~5人の入所者が来られるくらいかなと思っていましたが、ホームの寮母さんたちの声かけのおかげで、40名ほどの参加がありました。香り高いコーヒーの匂いが館内に広がっていきます。2台のコーヒーマーカーは大忙し。「普段なかなか飲めないの、おいしかったです。」「こんどはいつ来るの?」等、うれしい言葉を掛けてくれます。

■自分たちの「色」を出したい

今、「喫茶店」を開いて半年が過ぎました。「私達はこのままで良いのだろうか?」そ

ういう疑問が頭の片隅を横切っていきます。確かに喜んでくれているお年寄りはいます。会話をしあえる方のいます。しかし、大半のお年寄りは、着々と病状は進んでいます。もっと元気になってもらいたい、という私達の願いは叶えられません。ボランティアをしていて辛く悲しいことです。管理されたホームの中で、どのようにして「都市生活」のグループかけ橋のカラーを出していくかが今後の課題だと思います。

■大きな夢とはじめの一歩

だんだん、私たちの特別養護老人ホームをつくりたいと思うようになってきました。同じ価値観や、趣味を持った友達と、ボケながらも楽しく、一人の人間として、尊敬される、そんな生活が送れるような…。

でも、まだまだ先のこと、30年(?)もあります。それよりも先に、もっとしなければならぬことがあるかもしれません。都市生活の組合員の中でも、私達を必要としている人達がいるかもしれません。独り暮らしのお年寄りや、出歩くのが困難な障害者の方々等へ、「都市生活」のグループかけ橋が行いたいことは何なのでしょう。原点に戻って、私たちの目的のために、二年後、五年後へ向けて今、計画を立てていこうと思います。





‘わかば’の調理風景(仮設を含む、地域の高齢者昼食会)

仮設住宅から、さらに地域へ!

「食べること」は生活の基本。3年前、避難所の炊き出しから始まった活動は、仮設住宅での昼食交流会にひきつがれていきました。いま、私たちは「非常時の活動」から「地域の日常を新しく創り出す活動」へとあゆみはじめています。

食

青空市から手渡し共同購入へ

手

お年寄りや体の不自由な人が少しでも便利に暮らせるようにと始めた仮設住宅での青空市。はじめのころの「移動店舗」方式から、より生活に密着した「手渡し共同購入」へと形を変え、現在も継続しています。



‘すまいる’の訪問(ポートアイランド第3仮設住宅)

Since 18th January 1997

都市生活地域復興センターの現在



ハンゲル講座のメンバー(都市生活地域復興センター)

文化と文化が共生するまちへ

多文化共生のかぎはコミュニケーション。ことばの‘ふれあい’をめざしてスタートした「ふれあい共生塾・ハンゲル講座」も2期目に入っています。この秋からは「ふれあい共生塾・書道教室」も開講されました。

文

地域のネットワークづくりへ!

養

生協都市生活は来年度から福祉へ第一歩をふみだします。その最初の事業が2級ホームヘルパー養成講座の開講です。都市生活地域復興センターは震災後につちかわれたネットワークをもとに、生協都市生活のホームヘルパー養成講座のバックアップをしています。



ホームヘルパー養成講座の打ち合わせ(特養老人ホーム「園田苑」で)